



「廃棄物」概念の研究—解釈論—

著者	福士明
判型	A5判
ページ数	224
製本	上製本
発行日	2024年3月30日
ISBN	978-4-910236-10-0 C3032
定価	4,290円（本体3,900円＋税）

【内容紹介】

「廃棄物」とは何か？

清掃法、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法

—「廃棄物」概念の解釈論の整序・分析と新たな方向性の提示

廃棄物とは何か？ 廃棄物処理法（1970年制定）では、くごみ、粗大ごみ、燃え殻、汚泥、ふん尿、廃油、廃酸、廃アルカリ、動物の死体その他の汚物又は不要物であつて、固形状又は液状のもの（放射性物質及びこれによつて汚染された物を除く。）と定義されているが、この「廃棄物」概念をめぐる法解釈の現状について著者は次のように指摘する。〈廃棄物処理法の「廃棄物」概念の行政実務上の解釈論は、社会の政策需要に対して柔軟に対応してきているものであるが、現在、解釈論によるだけでは適切な政策対応ができなくなっているものとも感じられるところであり、循環基本法の「廃棄物」概念も含め、解釈論の提示に伴う制度設計論および立法論的な整理も必要な段階に達しているものと思われる。〉（本書・終章『「廃棄物」概念の解釈論の方向性』より）

本書は、「廃棄物」という概念について、行政実務・学説および判例によって提示された各解釈論の展開過程を丹念に整理し、廃棄物処理法の前身である清掃法（1954年）と基本法たる循環型社会形成推進基本法（2000年）を踏まえて、その新たな方向性を提示するものである。

【著者紹介】

福士明（ふくし あきら）

北海学園大学法学部・法学研究科教授。研究分野は行政法・環境法。

廃棄物法制に関する主要業績：「処分施設立地手続」ジュリスト1120号（1997年）、「産廃処理施設をめぐる最近の判例」判例タイムズ972号（1998年）、「産業廃棄物処理施設に関する今後の自治体許可手続のあり方」いんだすと13巻7号（1998年）、「廃棄物処理・リサイクルに関する法律と協定」『環境問題の行方』〔ジュリスト増刊新世紀の展望2〕（1999年）、共著『産廃法談』（環境新聞社、2004年）、「廃棄物訴訟」環境法政策学会編『公害・環境紛争処理の変容』（商事法務、2012年）、「産業廃棄物法制の現状と課題」高橋信隆ほか編著『環境保全の法と理論』（北海道大学出版会、2014年）、「「廃棄物」概念の解釈論（1～4・完）」北海学園大学法学研究53巻4号（2018）、55巻3号（2019）、58巻2号（2020年）、57巻2号（2021年）等。